

住民意識の段階に応じたまちづくりの調査・提案手法に関する考察 八尾町上新町におけるまちづくりの実践 その1

住民参加
車座談義

ワークショップ 属性
八尾町

正会員 ○筒井 直央* 同 ウィチエンブラディット・ボンサン*
同 伊藤 雅人* 同 平林 直**
同 塩澤 諒子* 同 中島 直人***

1. はじめに

東京大学都市デザイン研究室（以下、当研究室）では、富山県八尾町上新町地区（以下、上新町）において、商工会の委託を受け、街並み修景などハード面や商店街活動におけるソフト面の提案を行うこと、またそれをきっかけとして地元住民のまちづくり機運を高めることを目的として調査、提案活動を行ってきた。本稿は、上新町において行ってきたまちづくりプロジェクトの活動を報告し、そこでの成果・課題について考察するものである。

2. 八尾町上新町の現況

八尾町は江戸初期に町建てされ、町家の連なる歴史的な街並みを持つ小都市である。毎年 9 月初旬に開催される風の盆に観光客が集中するが、中心市街地の商業的衰退、人口減少は顕著であり、商工会を中心として中心市街地活性化の取り組みがなされてきた。町の中心商店街を擁する上新町でも、商工振興協同組合を中心としてチャレンジショップや定期市などイベントの開催に取り組み、通年観光を目指しているが、実現には至っておらず、空家増加の問題や伝統文化の存続に危機感を強めている状況である。

3. 当研究室の取り組みと成果

当研究室では調査・提案の活動を接点として、地元住民との交流・意見交換を図りながら、1 年間以下のように取り組みを進めてきた。（表 1 参照）取り組みの目的の違いから 3 期に分けて活動を捉えることができる。

3-1 第 1 期 ～まちづくりの問題意識を引き出す～

第 1 期では、地元住民の町に対する思いや考えを引き出すことを目的として以下のような取り組みを行った。

□ヒアリング・座談会

15 の提案を検討するにあたって、ヒアリングや座談会を実施した。婦人会や商工振興共同組合、行政センターなどの既存組織ごとに少人数で語り合う場を設け、調査の中で発生した疑問点などをたずねた。

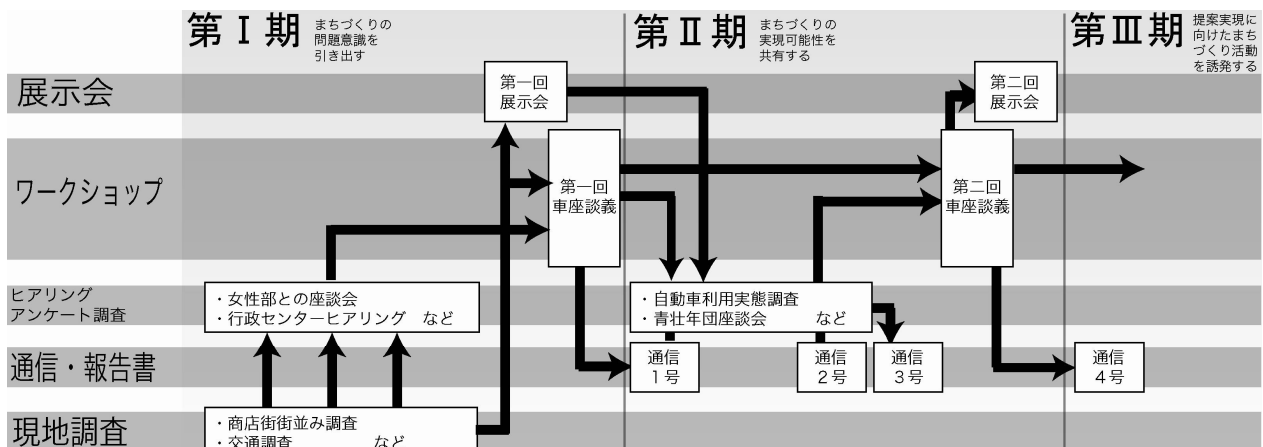
こうした取り組みは、提案にあたってのベースとなるとともに、活動初期段階における地元住民と我々との接点としての役割を果たしたと言える。

□第一回まちづくりフォーラム 車座談義

2006 年 10 月に第一回まちづくりフォーラム車座談義（以下、第一回車座談義）を開催した。談義に先立って、調査やヒアリング・座談会を通して検討しまとめた 15 の提案を発表した。それを叩き台として地元住民 30 名ほどが 5 つの班に分かれ、ワークショップ形式で議論を進めた。

議論では、提案に対する賛成・反対意見や指摘など多くの意見が出された。具体性の高い 15 の提案がきっかけとなり、町の将来に対する各人の思いを引き出すことに成功したと言える。特に提案の事業性に対する意見や指摘が多く出されたことが第一回車座談義の特徴である。この背景には、商店街を中心として全国各地のまちづくり先進事例の見学などを既に実施してきており、提案内容そのものよりもいかに実現するか、という点に関心が向いていた上新町固有の事情が関係していることが考えられる。こうした地域の特性もあいま

表 1 研究室の取り組み概要



て、車座談義での議論の結果が第 1 期以降の取り組みの方向性を決定することとなった。

□まちづくり展示会

第一回車座談義と並行して 2006 年 10 月に、同町商店街にあるギャラリースペースにおいて、第一回車座談義で発表した 15 の提案とそれまでの調査結果を A2 パネルにまとめ、まちづくり展示会（以下、展示会）を 3 日間に渡って開催した。開催期間中は地元住民に加えて一般の観光客やまちづくり活動への興味から足を運んだ人などが訪れ、提案や調査結果に対する感想や意見、また八尾を訪れた印象を残していった。

このように展示会は、地元住民に加えて地域外部の人、観光客からの幅広い意見を得ることができる場として機能した。

3-2 第 1 期 ～まちづくり提案の実現可能性を共有する～

第 1 期であがった意見を集約すると、次の 2 点をあげることができる。第一点は観光を促進することだけでなく、住民の暮らしのことも考えた提案であって欲しいという意見。第二点は提案をいかに実現していくのか、事業性を検討する必要があるという意見であった。これを受けて第 1 期では、第一点を提案内容に反映させたい一方で、第二点に重点を置き、提案を誰がどのように実現していけばよいのかを考えていくことを目的として以下のような取り組みを進めていった。

□全戸配布のアンケート調査・なりひらまちづくり通信の発行

第一回車座談義の後、改めて 15 の提案に対する意見、感想を拾い上げるために、全戸配布のアンケート調査を実施した。アンケートの返信用紙にはぎっしりと意見が書き込まれ、第一回車座談義をはるかに凌ぐ量の意見が寄せられた。無記名の全戸配布アンケートの利点を生かし、車座談義に参加できなかった人や人前で意見を発表することが苦手な人などをも取り込んで、幅広い意見収集が行うことができた結果であると言える。

さらに、第一回車座談義の後、談義の内容やアンケート調査の結果などを掲載した新聞「なりひらまちづくり通信」（以下、通信）の全戸配布を計 4 回実施した。通信により、我々と直接交流のない人にまちづくり活動の存在や状況を広く知らせることが可能となった。

アンケート調査や通信により集められた幅広い意見は提案や車座談義の手法にフィードバックされていった。

□ヒアリング・座談会

第 1 期においても、ヒアリングや座談会を実施した。第 1 期のヒアリング・座談会では実態を知ることや知識を得ることが主要な目的であったのに対して、第 1 期では現状の町に対する認識や、観光を促進するための方法について話合うなど、提案の実現を意識した内容となった。

□第二回まちづくりフォーラム 車座談義

2007 年 2 月に、地元住民 30 名ほどが集まり第二回まちづくりフォーラム車座談義（以下、第二回車座談義）を開催し

た。前回フォーラムでの議論を受けて 15 の提案の検討を進め、各提案ごとに主体・時間・資金などを示した「実現プロセス」を掲載するとともに、参考となる「事例」を掲載した。そのうえで、車座談義の方法として、年代や職業など属性別に班を分けて議論を進めた点が第二回車座談義の特徴である。議論の方向性として、「主体」に着目し、いかに提案を実現していくかということが焦点として定まった点が第一回車座談義から大きく前進した部分である。

具体的には「ご意見番」「商店街旦那衆」「サラリーマン」「若者」「女性」の 5 班に分かれて議論が行われた。上新町では商店街としてのイベントや行事の実行・運営にあたって各組織が役割を分担して進めており、そうした基盤を活かし、地域の状況に則した議論の方法であったと言える。

こうした属性別に班を分け、主体を意識した議論を交わした結果として、実現に向けての障壁が地元住民の中にイメージされ、それをいかに解決していくかという問題意識の形成につながったと言える。

3-3 第 2 期 ～提案実現に向けたまちづくり活動を誘発する～

第二回車座談義を通して、提案の実現に向けての地元住民の意識が強まったところで、その次の段階を目指したのが第 2 期の取り組みである。すなわち提案の実現の可能性を地元住民に感じてもらい、地元住民によるまちづくり活動を誘発することが目的であった。そのための方法の最初のステップとして「まちづくり事例集」を作成した。

□まちづくり事例集

ひとつの提案に対して 2～3 つ、計 50 の事例について事業内容、工夫点、主体などについて紹介した事例集を作成した。事例には、ハード・ソフト両方の事例、地元住民の自主的な活動や小さな努力、工夫による成功例から補助金を活用して大掛かりな事業を進めた事例までを集めた。

4. まとめと考察

本活動の成果は次の 2 点である。

1) ヒアリング、座談会、アンケート調査、通信、車座談義など様々な方法を用いて地元住民や観光客など幅広い対象からできるだけ多くの意見を拾い上げることに成功した。そのために対象地域が持つ組織基盤や持ち合わせている特別な状況、住民の問題意識に則した具体的方法を実践した。それはすなわち属性別に班分けを行ったワークショップの方法などである。

2) 調査内容や調査方法、議論のテーマなど、活動の枠組みが最初に決められている活動とは異なり、本活動では意見を拾い上げるそれぞれの取り組みの結果が相互に関連することによって次なる展開の方向性が生み出だされ、状況に応じた活動が展開していった。

*東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 修士課程

**東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻 修士課程

***東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻 助教

* Master Course, Dept. of Urban Engineering, faculty of Engineering, Univ. of Tokyo

** Master Course, Socio-Cultural Environment, Grad.school of Frontier Sciences, Univ. of Tokyo

*** Research Assoc. Dept. of Urban Engineering, faculty of Engineering, Univ. of Tokyo